

製品名: CaMK2 (リン酸化 Thr286) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05675**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	54kDa

抗原情報

遺伝子名	CAMK2D CAMKD
別名	Calcium/calmodulin-dependent protein kinase type II subunit delta (CaM kinase II subunit delta;CaMK-II subunit delta;EC 2.7.11.17)
遺伝子 ID	817.0
SwissProt ID	Q9UQM7/Q13557
免疫原	ヒト CaMK2 由来の合成ポスフォペプチド（リン酸化 Thr286）

背景

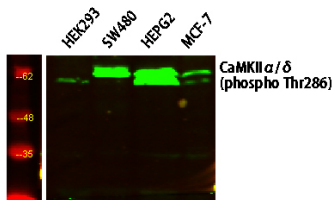
この遺伝子産物は、セリン/スレオニンプロテインキナーゼファミリー、および Ca(2+)/カルモジュリン依存性プロテインキナーゼサ

プファミリーに属する。カルシウムシグナル伝達は、グルタミン酸シナプス可塑性の様々な側面において極めて重要である。このカルシウムカルモジュリン依存性プロテインキナーゼは、 α 、 β 、 γ 、 δ の4つの異なる鎖から構成される。この遺伝子によってコードされる α 鎖は、海馬の長期増強（LTP）および空間学習に必須である。このタンパク質は、カルシウムカルモジュリン（CaM）依存性活性に加えて、自己リン酸化を受けることでCaM非依存性活性を示す。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが同定されている。[RefSeq提供、2008年11月]触媒活性：ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、酵素調節：Thr-286の自己リン酸化により、キナーゼはカルモジュリン依存状態からカルモジュリン非依存状態へと切り替わります。、機能：CaMキナーゼII（CAMK2）は、中枢神経系における主要なキナーゼであり、長期増強および神経伝達物質放出に関与していると考えられています。興奮性シナプスにおけるNMDARシグナル伝達複合体のメンバーであり、AMPAのNMDAR依存的増強およびシナプス可塑性を制御すると考えられています。、類似性：タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。、類似性：タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CAMK Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。CaMKサブファミリー。、類似性：1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、細胞内局在：シナプス後脂質ラフト。、サブユニット：CAMK2は、 α 、 β 、 γ 、 δ の4つの異なる鎖から構成される。これらの異なるアイソフォームは、8~12個のサブユニットからなるホモまたはヘテロ多量体ホロ酵素に集合する。BAALC、MPDZ、SYN1、CAMK2N2、SYNGAP1と相互作用する。、

研究分野

神経科学

画像データ



さまざまな溶解物のウェスタンブロット分析、CaMK2 (リン酸化 Thr286) ウサギポリクローナル抗体を 1:1000 に希釈し、4°で一晩処理し、二次抗体を 1:10000 に希釈し、37°で1時間処理しました。